

2008.5.19

CIAJ/MCPC共催シリーズ・セミナー
 モバイルセキュリティ

2008年5月23日10:00-12:00

第1講：「モバイルコンピューティング利用動向の現状」

<p>講師： (株)リックリサーチ 取締役 和久井正吉 氏 マーケティング企画部 菅原 啓 氏</p>	<p>(株)リックリサーチ：情報・通信分野、家電・AV機器、撮影機器を専門にマーケティングリサーチを行っており、IT業界と家電・カメラ業界に精通。また、グループ企業の(株)リックテレコムと(株)リックIT&家電業界の出版やコンベンション等を業務としている。取締役和久井正吉 氏：2002年リックリサーチ取締役、2006年(株)リック取締役兼務。IT&家電業界のマーケティングリサーチ歴35年。マーケティング企画部 菅原啓 氏：今回の調査を担当。モバイルコンピューティングについては、技術面にも明るく、ユーザ意識の分析をよりの確に行っている。</p>
<p>概要： MCPC（安田晴彦会長）は本年1月、モバイル機器使用の現状と課題、及び将来的ニーズを把握するために約1万人のビジネスユーザーを対象に調査を実施した。調査を通じて浮上してきた問題は、モバイル機器をオフィス外で使用するユーザにおいてはセキュリティ意識の水準が高いと云えず、またオフィス外使用をためらっている理由にはセキュリティが阻害要因のひとつとなっているという点であった。そこで、本講演では、同調査の分析結果を踏まえつつ、モバイルコンピューティングにおけるセキュリティ意識について、調査を担当した(株)リックリサーチから報告を行う。</p>	

2008年6月12日10:00-12:00

第2講：「企業セキュリティの現状（パソコン&携帯）」

<p>講師： 富士通(株) セキュリティソリューション本部 情報セキュリティセンター長 塩崎哲夫 氏</p>	<p>セキュリティソリューション本部 情報セキュリティセンター長。 1998年に@SecureVisionとしてセキュリティソリューションを確立。 インターネットのセキュリティ基準、GPKI設計支援、オープンシステムの不正アクセス自動防御（ECOM）の研究開発などを経て、脆弱性診断、PKI構築サービス、リスク分析と対策立案コンサル、セキュリティ監査などに従事。 ・IPA脆弱性情報取り扱い委員 ・CISSP CBK Forumメンバー ・日本情報セキュリティ監査協会 認定委員 ・CISSP、CISA、公認情報セキュリティ主任監査人</p>
<p>概要： モバイルのセキュリティもまた、企業のセキュリティ対策の一環として、企業のセキュリティポリシーから一つずつ考えていかなければならない。企業がセキュリティ対策を行う場合、その対策が有効であるのか、対策に対する投資が効率的であるのかということ把握することは大変重要である。本セミナーでは、企業がセキュリティ投資・対策を考えていく上で重要となる考え方「情報セキュリティガバナンス」について、分かりやすく説明する。 ① 最近のセキュリティ事情・動向 ② 情報セキュリティガバナンスとは ③ セキュリティ対策を考えるためのアーキテクチャー ④ セキュリティ対策効果の可視化</p>	

2008年7月10日10:00-11:00

第3講：「情報漏えい対策の理論と実際」

<p>講師： 情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科教授 板倉 征男 氏</p>	<p>1966年3月東京工業大学修士課程修了。(株)NTTデータにて航空路レーダ情報処理システムなどの高信頼性システムの設計および構築に従事。取締役SIS(戦略情報システム)推進本部長、新世代情報サービス事業本</p>
--	---

	部長、情報処理学会理事、NTTデータテクノロジー(株)社長などを経て2004年4月より情報セキュリティ大学院大学教授。「セキュリティ管理と経営」、「個人識別と個人情報保護」などの講義、「生体認証方式」、「情報漏えい対策」、「AI(人工知能)技術と情報セキュリティの連携」などの研究に従事している。博士(工学)、中小企業診断士、日本セキュリティマネージメント学会理事、情報処理学会監事。
概要:	有力企業数社の情報漏洩対策について、全体を鳥瞰し共通する課題について述べる。問題構造化の技法を用いた課題の解析を行い、階層的な対策について説明する。次に、不正行為の検知や予知を行う研究事例をあげ、今後の機械力を動員した効率的な行動監視の方策を論ずる。また、行過ぎた監視が社員のやる気を阻害する弊害に対して、機会巡視と管理者による監視の概念を提案し個人の尊厳維持やプライバシー問題に対する新たな解決方策を提案する。

2008年7月10日11:10-12:10

第4講：「携帯電話・セキュリティ機能の現状」

講師:	(株)NTTドコモ 法人営業本部 ソリューションビジネス部 第一開発担当 部長 鶴巻 宏治 氏	1984年3月31日 名古屋大学 工学部 電子工学科卒業。 1984年4月1日 日本電信電話公社、横須賀電気通信研究所配属。人工知能、自然言語処理の研究、AIワークステーションの研究開発、WWWオーサリングツールの研究開発に従事。 1999年8月(株)NTTドコモ マルチメディア研究所 モバイルインターネット研究室配属。モバイルVPNの開発、FOMA GW装置の開発に従事。 2002年7月(株)NTTドコモ東海 開発部。ASPサービス装置の開発に従事。2004年4月(株)NTTドコモ 移動機開発部。携帯端末ソフトウェアプラットフォームの開発に従事。2006年4月(株)NTTドコモ ソリューションビジネス部。情報処理学会、日本ソフトウェア科学会会員、MCPCベンチャー支援ワーキング主査
概要:	ケータイ電話にはこれまで、メール、Webブラウザ、カメラなど、ユーザーニーズを先取りする形でさまざまな機能が取り入れられてきた。その一方で、昨今の情報セキュリティへの関心の高まりに伴って、ビジネスユーザからは情報管理機能へのニーズが高まってきた。それに応えるべく、NTTドコモでは、セキュリティ機能を充実させたビジネスケータイを開発した。本講演では、ビジネスシーンで求められるセキュリティについて、端末機能・ネットワークサービスの両側面から紹介する。	

2008年7月18日10:00-11:00

第5講：「個人認証について」

講師:	産業技術大学院大学 産業技術研究科教授 瀬戸 洋一 氏	1979年慶応義塾大学大学院修士課程了。同年(株)日立製作所入社。以来システム開発研究所にて衛星画像処理、地図情報処理、情報セキュリティの研究に従事。平成18年4月公立大学法人産業技術大学院大学教授、工博、技術士。現在は、バイオメトリック認証技術の安全性、プライバシー影響評価、リスク管理などの教育および研究を行う。バイオメトリックセキュリティコンソーシアム議長、信学会バイオメトリックシステムセキュリティ研究会委員長、ISO/IEC JTC1/SC37専門委員会委員長、著書「バイオメトリックセキュリティ入門」など。
概要:	バイオメトリック技術は、電子パスポートなどの入出国管理業務、銀行ATMにおける本人確認、モバイル端末における本人認証など、一般社会に浸透してきた。今後、モバイル端末分野における本格利用においては、いくつかの課題が残る。例えば、ベンダーとユーザにおける精度に関する認識の相違、個人情報保護の観点でのシステム構築・運用のフレームワークが未整備などである。バイオメトリック製品のコモディティ化を実現するためには、バイオメトリックスの長所短所を理解した上で、システムを構築・運用する必要がある。本講演では、バイオメトリック技術の現状を紹介した後、安全・安心なシステムを構築・運用するための提言を行う。	

2008年7月18日11:10-12:10

第6講：「携帯電話のセキュリティ」

講師：	KDDI(株) モバイルネットワーク開発本部 au技術開発部 次世代企画グループ 課長補佐 米倉 和則 氏	1991年当社入社。入社後、交換機システムの開発に従事。その後、携帯電話サービス企画を手掛ける。 2006年より現職となりau携帯電話のセキュリティ全般に従事。 JEAGにも参加し、迷惑メール防止施策などを手掛ける。 2007年よりMCPCアプリケーションWGに参加し、モバイルコンピューティングの利用動向調査の検討にも参画する。
概要：	現代のビジネスや生活に欠かせないものとなった携帯電話。今回、携帯電話のセキュリティについて、取り巻く環境との兼ね合いを解説するとともに、au携帯電話での解決方法を紹介する。 ① 携帯電話とセキュリティ（これまでの変遷を含む） ② 迷惑メールが及ぼすセキュリティ懸念 ③ 有害サイト対策とフィルタリング ④ その他	

以上